

事後評価報告書(日-中国研究交流)

1. 研究課題名: 「気候変動に向けた高温、乾燥および雑草耐性稲系統の開発」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 国立大学法人琉球大学農学部 教授 本村 恵二

2-2. 中国側研究代表者: 中国農業大学資源及び環境科学科 教授 Chuihua Kong

3. 総合評価: (C)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

イネ保存品種・系統の中から選抜した「耐乾性」、「耐暑性」品種について QTL 解析を行ない、遺伝子マーカーを位置づけた。しかし、中国で開発された雑草抑制作用の強い品種 Huga-3 を軸として、新たな交雑種の開発に結びつけるという当初の研究計画とは異なり、「日本側での育成中の系統があり、それを使用することとした」(研究終了報告書 2 頁)ことは研究計画の立案過程に不備不足があったと指摘されても仕方がないのではないだろうか。仮に日本側の系統が Huga-3 を遥かに上回る形質を持っているのであればそれを説明するべきである。また、「耐暑性および耐乾性に関わる物質の同定」(中国側課題として H25 年度計画書様式 4 に記載)、あるいは「乾燥耐性に関わる物質の同定」(日本側課題として H24-H25 年度成果報告・計画書様式 1-1 に記載)という研究課題が掲げられているにもかかわらず、その結果や成果についてこれまでの報告書に記載は全くないものと思われる。

(2)交流成果の評価について

実用イネ品種の育成には中国側も好意的であり、今回の研究交流が今後広がり、実現化に道が開かれれば良い。一方、日本および中国研究者の人的交流に関して、渡航した実績があるのはいずれも教授や研究所部長クラスであった。若手(琉球大学准教授、助教)は一度も中国を訪問しておらず、また中国側では、訪日した研究者チーム 3 名はいずれも教授であった。将来的に発展性のある日中共同研究体制を構築し、維持して行くためには改善すべきと考える。また、研究期間中に国際関係の影響があったとは言え、日中で共同開催したミーティングは H24 年度(北京、参加者 15 名)と H25 年度(沖縄、参加者 20 名)だけであり効率的な情報交換・発信をしたとは言い難い。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

論文発表、学会発表、特許出願に関して、相手側研究チームとの共同、日本側の単独の双方において、該当件数は無いようである。これは高機能性を賦与したイネ系統の開発という、時間を要する研究である要素を考慮しても残念な結果と判断せざるを得ない。